

第 70 号 / 2009 . 6

(財)エンジニアリング振興協会

石油開発環境安全センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYD ビル

TEL(03)3502-4447 / FAX(03)3502-3265

委員会報告

- ・ 運営会議 ・ 企画委員会
- 石油学会の野口記念賞受賞
- ワークショップ 参加報告
- 会員の皆様へのお知らせ
- ・ 第 318 回サトウ・トイ講演会報告
- ・ 研究成果発表会開催案内
- ・ エンジニアリング シンポジウム 2009 開催案内
- 会員の広場
- トピックス欄
- 拙句雑感 (編集雑感)

委員会報告

平成 21 年度第 1 回運営会議

日時：平成 21 年 6 月 16 日 (火)

議題：平成 20 年度事業報告(案)

平成 20 年度決算報告(案)

報告案件

新委員の紹介に続き、新委員長として、佐野 正治殿 (国際石油開発帝石(株)取締役専務執行役員) が互選により選任され、就任のご挨拶があり、引き続きご来賓の経済産業省 原子力安全・保安院 鉱山保安課藤田石油・ガス国際班長からのご挨拶を頂いた。その後議事に入り、入澤常務理事より標記議題について内容説明を行い、審議の結果、満場一致で承認された。公益法人制度改革について宮川常務理事より協会での検討状況の報告があった。本委員会で承認された上記は理事会に付議されることとなった。

平成 21 年度第 1 回企画委員会

日時：平成 21 年 6 月 11 日 (木)

議題：平成 20 年度事業報告(案)

平成 20 年度決算報告(案)

報告案件

新委員の紹介に続き、新委員長、吉田 恒夫殿(石油資源開発(株)常務取締役)の就任のご挨拶があり、ご来賓の経済産業省 原子力安全・保安院 鉱山保安課 杉様からのご挨拶を頂いた。その後議事に入り、入澤常務理事より標記議題について内容説明を行い、審議の結果、承認された。公益法人制度改革について三浦副所長より協会での検討状況の報告があった。本委員会で承認された上記は運営会議に付議されることとなった。

石油学会の野口記念賞を、MH21 研究コンソーシアムが受賞

経済産業省主導のもと進められているメタンハイドレート開発促進事業におけるメタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム (MH21 研究コンソーシアム) のフェーズ 1 の成果が、社団法人 石油学会よりその功績を評価され、平成 20 年度野口記念賞を授賞しました。当センターも MH21 研究コンソーシアムのメンバー ((独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構、(独) 産業技術総合研究所、(財) エンジニアリング振興協会) であり、環境影響評価グループとして研究開発を進めてきました。平成 21 年 5 月 19 日 (火) に開催された社団法人 石油学会の第 52 回年会では、MH21 研究コンソーシアムのプロジェクトリーダーである田中彰一東京大学名誉教授が、「メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアムフェーズ 1 の成果」について授賞講演を行いました。野口記念賞は、新燃料油開発、重質油対策等の石油精製技術および石油留分の新用途開発に関わる技術に関する基礎的および応用的研究ならびに開発で、我が国の石油および石油代替エネルギーの安定供給に貢献する研究または技術において、その業績に多大な功績のあったものに社団法人 石油学会から授与されるものです。



受賞

(受賞者：田中彰一東京大学名誉教授)



受賞講演

(田中彰一東京大学名誉教授)

「野口記念賞」について

石油学会が発足する前、重質油対策技術研究組合、新燃料油開発技術研究組合、軽質留分新用途開発技術研究組合の解散に伴う基金を基に、その寄付の主旨に準じて平成8年6月に創設されました。賞の名称は3組合の組合長を歴任した、故「野口 照雄」氏(元興亜石油社長)によるそうです。



野口記念賞の贈呈楯
(当センター5階会議室)

第5回 IEA-GHG モニタリング・ワークショップ^o 参加報告

石油開発環境安全センター 総務企画部長 原文夫
技術調査部 研究主幹 吉村 司

IEA-GHG (International Energy Agency, Greenhouse Gas R&D Programme) モニタリング・ワークショップは、CO₂ 地中貯留状況をモニタリングする技術について国際的に検討するため、2004年11月に米国カリフォルニア州サンタ・クルーズで初めて開催されました。2005年にはイタリア・ローマ、2006年にはオーストラリア・メルボルン、2007年にはカナダ・エドモントン、そして第5回目の今年は東京で6月2日から4日までの3日間開催されました(石

油資源開発(株)本社会議室でのワークショップ(6.2~6.3)及び、新潟県の長岡実証試験サイト見学(6.4))。

エン振協は、第1回のサンタ・クルーズでの会議から、長岡の岩野原モニタリングの研究成果を積極的に発表し、その研究成果への高い評価を得てきましたが、今回も東京での開催に向けて組織された「国内組織委員会」への参加協力を含め、約100名の各国からの研究者が参加したワークショップでの技術議論に参加する

等、これまでの研究成果の発信と、活発な意見交換を行うことが出来ました。

RITE の茅所長の開会挨拶が行われたのちに研究発表や討論が行われました。主な研究発表は、日本からは RITE の三戸さんから二酸化炭素地中貯留の安全性確保のための圧入後モニタリング、日本 CCS 調査会社の阿部さんからモニタリングの将来計画、経産省の三橋さんからは日本の最近の CCS の動向、環境省の浜中さんからは海洋汚染防止法における CCS モニタリング、地科研の大沼さんからはインサラーの衛星データの発表がありました。また、海外の発表者からは欧米の現在モニタリングを実施している地点の現況報告や最新の研究成果について発表があり、実り多い国際会議となりました。



会場の様子 (RITE 茅所長挨拶)

会員の皆様へのお知らせ

1. 第 318 回サロン・ド・エナ講演会 開催報告

当センターが担当した第 318 回サロン・ド・エナ講演会は、6 月 17 日 (水) 16 時 30 分から「海洋リモートガス田開発への挑戦 - インドネシア洋上での LNG (液化天然ガス) 化事業を目指す - 」と題して、国際石油開発帝石 (株) 取締役常務執行役員マセラ事業本部長の菅谷俊一郎氏を講師にお招きして開催されました。

今回は会場の収容人員を上回る申し込みがありその調整に苦労しましたが、会場を埋め尽くした 135 名の聴衆の方々、新たなチャレンジである洋上での LNG 化事業計画について講師のお話を熱心に傾聴されていました。

講演では、開発対象であるインドネシアマセラ鉱区のアバディガス田の概要、洋上での LNG 化という開発方式を採用するに至った経緯、洋上 LNG 化を巡る世界の動向、本プロジェクトに関する技術的なフィジビリティ検討結果及び開発・生産開始に向けた将来展望などについて、分かり易く且つ理路整然と語って頂き、最後にいくつかの質疑を経て講演会は終了しました。

その後、会場を移して懇親会が開かれ、講師の菅谷さんを囲んでの議論や知人同士の談話の輪が広がるうちに時が過ぎ、盛会裏に閉会となりました。

来場された皆様には有為な情報が得られたものと確信しております。



講演中の菅谷氏



会場の全景

2. エン振協研究成果発表会 2009 開催案内

当協会における平成 20 年度の研究成果発表会を平成 21 年 7 月 9 日～10 日の 2 日間にわたり開催いたします。7 月 9 日の 1 日目は、財団本部 業務部・技術部関連の発表です。

石油開発環境安全センター・地下開発利用研究センター関連の発表は下記のとおりです。是非多数の方々のご参加をお願いいたします。

- ・ 日 時：平成 21 年 7 月 10 日（金） 10：00～17：15
- ・ 会 場：当協会 6-CDE 会議室
- ・ 参加費：無料

プ ロ グ ラ ム

（石油開発環境安全センター／地下開発利用研究センター）

7月10日（金）
開場（受付開始） 9:30
午前の部
石油開発環境安全センター部門 開会の挨拶 10:00（入澤常務理事）
E - 1 <10:05～10:30> 「海洋掘採施設環境影響調査」 - 磐城沖海洋掘採施設撤去前の周辺海域環境の現況 - 亭島 博彦（(株)日本海洋生物研究所 技術研究部 部長）
E - 2 - <10:30～10:45> 「メタンハイドレート開発促進事業 環境影響評価に関する研究開発」 - 環境に配慮した開発に向けたフェーズ 1 研究成果と目標達成状況 - 三浦 秀夫 ((財)エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 副所長)
E - 2 - <10:45～11:15> 「メタンハイドレート開発促進事業 環境影響評価に関する研究開発」 - 微生物遺伝子をバイオマーカーとして利用したメタン漏洩 モニタリング技術の開発と生態系影響評価への活用 - 吉田 光毅 (大成建設(株)技術センター水圏・生物環境研究室 生物環境チーム 課長)
二酸化炭素地中貯留推進室部門 開催の挨拶 11:15（入澤常務理事）
E - 3 <11:20～12:00> 「二酸化炭素地中貯留技術研究開発 貯留層賦存量調査 平成 20 年度成果報告」 中西 繁隆（電源開発(株) 火力エンジニアリング部 調査役(地熱技術担当)） 志田原 巧（(株)ニュージェック 国内事業本部 技師長）
（ 昼 休 み ）
午後の部
二酸化炭素地中貯留推進室部門（続き）
E - 4 <13:00～13:30> 革新的ゼロエミッション石炭ガス化発電プロジェクト ～発電から二酸化炭素貯留までのトータルシステムのフェージビリティ・スタディー(FS)～ 「CO ₂ 輸送システムの概念設計のうち、パイプライン輸送の概念設計」 古川 博宣（(財)エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 研究主幹）
E - 5 <13:30～14:00> 国際革新的ゼロエミッション石炭火力発電に関する技術動向調査 ～二酸化炭素輸送・貯留技術におけるサイト選定方法及び、 リスクアセスメント手法に関する調査～ 金光 雅弘（(財)エンジニアリング振興協会 石油開発環境安全センター 部長代理）

<p>地下開発利用研究センター部門 開会挨拶 14:00 (入澤常務理事)</p>
<p>E - 6 <14:05 ~ 14:35> 「大深度地下を活用した首都圏物流トンネル・新輸送システムの可能性調査」 横塚 雅実 (鹿島建設株) 土木管理本部 土木技術部 部長)</p>
<p>E - 7 <14:35 ~ 15:05> 「3次元地下空間情報の利活用に関する調査研究」 高橋 祐治 (鹿島建設株) 土木設計本部設計技術部 担当部長 (設計品質管理担当)</p>
<p>休 憩 10分</p>
<p>E - 8 <15:15 ~ 15:45> 「バイオマス起源DMEを含むエネルギー貯蔵・供給システムの開発」 米山 一幸 (清水建設株) 技術研究所 安全・安心技術センター 地下技術グループ 主任研究員)</p>
<p>E - 9 <15:45 ~ 16:15> 「気体水和物利用による水素貯蔵システムの検討」 柴田 敏雄 (三井住友建設株) 土木本部 土木設計部 構造設計グループ長)</p>
<p>E - 10 <16:15 ~ 16:45> 「ミュ-粒子の工学応用による地中空洞化調査システムに関する調査研究」 鈴木 敬一 (川崎地質株) 事業本部 探査技術部 技術開発グループ 課長)</p>
<p>E - 11 <16:45 ~ 17:15> 「大規模災害に対する中堅中小企業の事業継続セーフティーネット調査」 加藤 猛士 ((財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター 技術開発二部 主任研究員)</p>

申込み要領：所定の申込み用紙により郵送あるいはファクスによりお申込み下さい。

ホームページからも申し込むことができます。(<http://www.ena.or.jp>)

3. エンジニアリングシンポジウム 2009 開催案内

恒例のエンジニアリングシンポジウムが下記の日程で開催されます。

- ・開催日：平成21年11月19日(木)～20日(金)
- ・会場：日本都市センター会館(昨年と同じ)

詳細は、次回9月号にてご案内いたします。会員各位多数のご参加をお願いします。

会員の広場

平成21年度 石油技術協会 春季講演会が、平成21年6月2日(火)～6月4日(木)の3日間国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。当センターの職員及び賛助会員の皆様も、特別講演・シンポジウム・個人講演に多数参加されました。

6月2日には、当センターに関するテーマの特別講演も多くありました。

「混迷を深める石油市場とその将来展望」(財)日本エネルギー経済研究所 戦略・産業ユニット グループリーダー 小林 良和氏

「ロシアの天然ガス戦略」(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 石油開発支援本部 調査部担当審議役/主席研究員 木村 眞澄氏

「メタンハイドレートからのガス商業生産に向けた研究開発とその技術課題」東京大学大学院工学系研究科 エネルギー・資源フロンティアセンター 准教授 増田 昌敬氏

トピックス欄

1. 当協会の執務室レイアウトが、5月1日より一部の変更になりました。

3階フロアーは、技術部・海洋開発室。4階フロアーは、受付・総務部・業務部。5階フロアーは、地下センター・当センターで配置は変更有りませんが、旧打合せ・ロッカー室が、共用会議室となりました。

2. 経済産業省から5月18日に「新型インフルエンザ対策会議」の内容を職員及び賛助会員へ周知していただきたい旨の依頼がありました。

経済省から「新型インフルエンザ対策」について、経済省の当面の対処方針 政府の新型インフルエンザ対策本部の基本的対処方針 確認事項（厚生労働省） 基本的対処方針等のQ & Aが送付されてきました。

3. 経済産業省から5月26日に「夏季の省エネルギー対策について」の発表がありました。当協会では、以下の対応を行っています。

1) 事務室内の取り組み

冷房機の室温は28℃設定（クール・ビズで対応）

不要照明の不点灯（昼休み、退出時等の余分な照明はOFF）

定時退出に努める

リサイクルの徹底

業務に支障のない範囲内で、パソコン、プリンター等のOA機器の省エネルギーの実施

2) クール・ビズの励行

「ノーネクタイ」、「ノー上着」

注1) 業務上の都合、ネクタイ、上着が必要な場合は適宜対応すること。

注2) だらしない格好（Yシャツはズボンに入れる）に、ラフな服装（ジーンズ、Tシャツ、サンダル）及び露出の多い服装は不適（職場にふさわしい服装に心がける）

3) 期間

平成21年6月1日～9月30日まで

4. 経済産業省から平成21年度第3回製品安全対策優良企業表彰 応募企業大募集!のご案内リーフレットが送付されてきました。

本表彰の開催およびホームページは、URLは、<http://www.ps-award.jp> です。

（応募受付期間は、6月15日（月）から8月3日（月）迄です）

拙句雑感：先日、当協会の執務室の移動のために、当センターの書庫を整理していたところ、設立当初の報告書を見つけました。つつい拾い読みをしてしまったのですが、当センターの先人達は、民間の力を結集してエンジニアリング技術を推進するために、“安全の確保”と“環境の保護”をキーワードとして掲げ、当センターを設立したとのことでした。彼等の情熱が行間の随所に滲み出ており、当世の公益法人制度改革と世界同時不況と言う荒波を乗り切るには、賛助会員各位をはじめ関係者の協力なしには乗り切れないことを教えてくれました。当センターは、江戸時代は大名屋敷、明治時代以降は官庁街として（中央公論新社刊：宮田章著「霞が関歴史散歩」による - この本を片手にウォーキングをすればと思わぬ新発見と思わぬ人達を見掛けることができ、小生は心身ともにリフレッシュできます。最近、健康を兼ねてのウォーキングが流行のようで、中高年のリュックを背負った集団をこの辺りでよく見掛けます。）建設された区画の中にありますので、近くには多々来られることと思います。気軽にお立ち寄り下さり、皆様のご意見等を聞かせ下さい。お待ちしております。（SEC ニュース編集者）